令和6年度 第3回恵庭市学力・体力向上推進会議 会議録

〔開催日時〕 令和7年2月6日（木）13：30～14：30

〔開催場所〕 恵庭市民会館 1階 第2会議室

〔出席者（敬称略・順不同）〕

委員／佐々木 保（有識者）

吉田 かおり（恵庭市校長会）

山口 広宣（恵庭市教頭会）

北 幸法（学力向上アドバイザー）

平井 梓（恵庭市社会教育委員）

河内 紀彦（北海道ハイテクACアカデミー）

※ 欠席者

村越 含博（北海道文教大学）、高橋 和子（恵庭市PTA連合会）

事務局／岩淵 隆（教育長）、狩野 洋一（教育部長）、山口 晃弘（教育部次長）、藤野 真一郎（教育総務課長）、前川 豊志（教育総務課主幹）、笹村 雄平（教育総務課主査）、山下 真伸（教育総務課主査）、小井 裕介（教育総務課主査）、布施 空良（教育総務課主事）

〔内 容〕 ※議事に入るまで、教育総務課長 藤野が進行

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 教育長挨拶

4. 議事 ※教育総務課主査 笹村、山下より資料に基づき説明。

1) 学力・体力向上に係る予算（案）について

①学力向上

事務局：標準学力検査の実施及び英検 IBA、ESG の実施については、640万4,000円と令和6年度とほぼ同程度となっている。

標準学力検査 NRT については、令和6年度と同じ内容での実施を予定している。

英検 IBA については、令和4年度から令和6年度まで北海道教育委員会の事業として実施することとなっており、現時点で令和7年度以降も継続されるかどうかについては正式な通知をまだいただいていない。

小学校6年生を対象とした英検 ESG についても、次年度以降も実施予定となっている。

ALTの配置については、1,806万9,000円、また外国語指導に関わる地域人材の活用については、212万3,000円となっている。

教職員への研修については、教師の謝礼として2万円、ICT教育の充実については、3億3,989万8,000円、こちらは令和6年度から大幅に増加しているが、1人1台端末の更新に関わる費用として、およそ3億円程度見込んでいる。

デジタルドリルについても令和6年度から実施しているが、こちらも引き続き活用を進めていく予定である。

学習支援員等の配置については、令和6年度から増員して2名体制としているため、こちらも継続して716万8000円としている。

地域による学習指導については、学校運営協議会の各校への交付金として186万4,000円となっている。

②体力向上

体育事業への支援について、こちらハイテクACから指導員を派遣する費用として37万5,000円、小学校水泳事業における民間プール施設等の活用について、こちらは1,494万3,000円。こちら、令和6年度より学校に設置している市民プールが老朽化により使用できなくなった島松、柏、松恵、恵み野小学校の4校で民間プールを活用している。

次年度も引き続き4校での実施となる見込み。

部活動指導員の配置については、205万3,000円。

こちら、令和6年度増員したことで市内中学校5校全てに1名ずつ配置されている。

部活動の地域移行については69万3,000円。

令和6年度に引き続き、スポーツ協会と連携した人材バンク事業を継続する予定となっている。

【質疑応答】

G委員：部活動の地域移行について、例えば、人材バンクに登録、またはそこから派遣された場合のシステムや、予算としてこれに適しているのか等、どのような内容なのかをお伺いしたい。

事務局：69万3,000円の内訳について、恵庭市スポーツ協会と連携して人材バンク事業を継続しているため、引き続き運営を継続するという内容で30万円を計上。残りの額については、人材バンクから実際に中学校に指導した場合の報酬という形で予算措置しているため、そちらの合算額となっている。

G委員：中学校への派遣は、何か規定等はあったか。例えば、指導者を派遣した場合の金額や、人材バンクの運営内容、派遣した場合の指導者の謝金が大体いくらか等を伺いた

い。

事務局：謝金については、約 5,000 円で積算している。根拠として、部活動指導員の単価が 1 時間当たり 1,600 円、大体 1 日 3 時間ということで、4,800 円。約 5,000 円で積算をしている。人材バンクの内容については、仕組みの維持管理や広報活動を見込んでいる。

G 委員：人材バンクについて、その後の需要や、登録者について伺いたい。

事務局：現段階では登録者が 5 名。派遣実績については、合同サッカー部において 20 回の派遣実績がある。

F 委員：人材バンクの登録者が凄く少ない印象を受けた。自分自身、恵み野中学校のコミスクに関わっているが、スキーの体育授業に同行していただける方が少ないということで、中学校のコミスクの方でも人材バンクとして募集しており、その中にスキー授業の補助的な支援をお願いしている。体育の先生でも、スキーが得意な先生ばかりではなく、わざわざスキーの授業に行くためにスキーの講習を受けている先生もいると伺っているため、人材バンクでスキーができる方、もしくはインストラクター免許を持っている方がいれば、恵み野小や恵み野中等を合わせて、スキー授業のアシスタントや、インストラクターとして、指導をお願いするシステムができそうだと思う。

事務局：中学校の方に今年度の前期で 1 回、情報収集で回らせていただいております。年度末までにもう一度回りたいと思っている。教えていただいたスキー授業での支援等に関わっている市民の方もいると思うので、そういう情報も収集し、実際に活動も見ながら、人材バンクの登録も紹介し、今後の登録に繋げていけるよう進めていきたい。

事務局：補足として、今年度の人材バンクについては、現在部活動が設置されている種目に限り募集している状況だが、いただいた意見も参考にしながら進めてまいりたい。

委員長：学力向上について、学習支援員等の配置という中で、いわゆる特別支援教育支援員ではなく、学習支援員ということで何名か配置しているということで書かれているが、学習支援員の支援の中身はどういうものか。

事務局：小学校は算数、中学校は数学をメインに TT のような形で授業に入っていただき、支援を進めている。それについて毎年度検討もしており、配置校については、学力テスト等の結果も参考にしながら、決定している。

2) 令和 6 年度 小学校体育授業支援事業の実施結果および今後について

3) 令和 6 年度 中学校体育授業支援事業の実施結果および今後について

事務局：小学校の体育授業支援事業について、こちらの事業は北海道ハイテク AC の協力のもと、平成 31 年度より全校を対象に実施している事業である。目的については、児童

の体力、競技力の向上、教員の指導力の向上で、実施実績については1月末で既に67コマ、9割が実施済み。内容については、運動会前の走り方教室が4割以上となっており、続いて、ラダーやステップを加えた反復横跳び、器械運動として跳び箱といった俊敏性を高める運動となっている。その他にも、ボール投げ、高跳び、ハードル、幅跳びも実施されている。

今後については、担当教員からも肯定的な意見が多く、高いニーズがあるため、次年度も継続していきたいと考えている。

中学校の体育授業支援事業については、小学校の実施を受け、令和3年より実施されている。今年度については、7月3日に柏陽中学校の2年生を対象に実施した。

内容は、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせること、足が速くなる指導とのことで、体づくり運動を計80名の生徒に対しクラスごと3コマ実施した。

今後について、実施後に中学校の管理職及び体育教員を対象にアンケートを実施したが、中学校には母体の専科教員がおり、専門的な指導が可能であることや教育課程の位置付けが難しい側面があるとの意見があり、発展的見直しを求める意見をいただいた。また、授業ではなくトレーニング講座等、別形式での指導を行うことも有効との声も一部あったが、全市的な取り組みとして展開は現在難しい状況。

次年度以降、当事業については廃止とさせていただき、ニーズが高い小学校の体育支援事業に中学校3コマ分を上乗せする形で、体育支援事業の全体予算を減らすことなく確保し、実施していきたいと考えている。

【質疑応答】

F 委員：学校の方から来ている発展的な見直しの具体的な内容を教えていただきたい。

事務局：今回中学校は試行で3コマついているが、その3コマをニーズがある小学校の方に3コマを乗せるという内容である。

F 委員：中学校側から小学校に回してはどうか。という意見が来たということか。

事務局：その通りである。

G 委員：要望になるが、体力の向上を考えた時に、小学校の方は全校、全クラス、年1回行けるため、1回で児童の体力、競技力の向上及び教員の指導力の向上が、微力ながら叶っているとは思っている。俊敏性を鍛えるトレーニングはそもそも学校のカリキュラムにはないはずなので、イベント的に呼ばれてしまうと、それを継続的に続けられるように我々もプログラミングするが、1回で終わってしまうものもある。教員の指導力向上も考えた時に、教員の方とのコミュニケーションをもっと取らないといけないと思うが、以前にも、派遣を依頼する工程が手間になるから呼ばない、実施後に報告をもらえないと先生方の業

務も逼迫しているから難しい、という意見もあった。ただ、やはり回数のところはもう少し上げるべきではないかと思っており、年に1回ではなくて、年に2回、3回と回数を増やせたらなと感じている。

僕たちも1回でどうかとは思っているが、それが中々難しいというのが現状であるのと、先生方の話を聞くと、今困っている目先のことをクリアしたいというところがすごくあるので、その力になりたいなという思いもある。

中学校の分を小学校の方に移すことは賛成だが、そもそもこれを最初にやろうとなったきっかけは、中学生の体力向上に係る施策が欠けているというのが念頭にあったと思う。

元々あった目的ではないところが出てきてしまっている気はしている。

僕も中高の教員免許を持っているが、体育教師も全部がプロではなくて、例えばスキーの時に僕たちが派遣されてもよかったのかなとか、バスケットは専門じゃないのでバスケットのコーチを呼んだほうがいいのかなど、学校体育の方もより専門的な先生がやるのであればより良くなっていいのかなと感じる。部活動をやっている子、やっていない子もいるので、本当は全学年を呼んで講習会のように指導してもよかったのかなとか、部活動のサッカー部だけを全校集め、その日にやるとか、そういう風にお金を回してもよかったのかなとも思う。今、部活動の地域移行ということも考えると、そこも見据えて、廃止とかではなく、次に繋がるようになると嬉しい。僕もクラブを持っているため、小中学生と会って色々話をするが、やはり求めている部分は現場と先生方の捉え方も少し違ったりと思うので、新たに何か出来ないかなと思っている。

事務局：これまでの全国体力調査の結果を踏まえた時に、実際中学校の子どもたちの体力の状況は、全道、全国を超えてきている状況にある。合わせて、中学校の子どもたちの意識の部分は、運動が好きな子ども、体育が好きな子どもというのが、全道、全国よりも割合が高いという傾向があるが、一方で小学校は中学校に比べ、体育の授業が楽しいと捉えられている子どもの割合が、若干下がる傾向にある。これは、全道的にも全国的にも同じ状況になって、専科の体育の先生方が授業をやっている中学校に対する授業の内容に対する子どもたちの評価を一定程度得られているものという風に考えることができるが、1週間3時間の体育の授業、45分の授業で、子どもたちの体力、運動能力をどこまで向上させることができるかというのが、ずっと議論されているものの、限界がある。

そうなった時に、体育の授業の中で、特に小学校の子で1番大事にしていかなければならないのは、体を動かすということが、すごく爽快で、楽しくて、運動に興味関心が持てるという、そういう意識を育ててあげることが体育の授業の中ではすごく大事になっており、先ほど発展的なのという話あったが、子どもたちに運動の楽しさや爽快さだとか心地良さというものをたくさん味わってほしいということで、ハイテクさんにも期待を寄せてい

る、そういった授業の組み替えである。先生方がそういったものを直接教員として、小学校の先生方がどうできるかということについては、先生方の研修のあり方も含めて、今後何か連携して一緒にやれるかということについても、少しお時間をいただきながら知恵を絞らせていただきたい。

5. 意見交換

C 委員: コミュニティスクールでは、夏休み、冬休みに子供学習会というのを開いていただき、大きい蛇を連れてきていただいて首にかけたり、大きな亀を触ったりと、そこで生き物を好きになるきっかけにもなった。また、大きい将棋盤を持ってきてくださり、実際にやったりもした。私は今回絵手紙に参加させていただき、年賀状を書くのに絵手紙の書き方を教えてくださった。そこで身につけているものというのは、学習内容だけじゃなく、地域や人との関わり方、礼儀、人のお話を聞く態度、学びに向かう姿勢などが養われているなど感じている。

恵み野小学校のコミュニティスクールのコンセプトとして、大人も子供も楽しめるというふうになっているため、今回は先生方も誘って子どもの学習会に参加させていただき、地域、学校、子どもたちという風に繋げていけたらなと進めていっているところである。

コミスク活動は、島松小学校でも盛んに行われているため、島松に負けないようにと思っているが、みんなが楽しく過ごせればいいなという風に思っている。社会に繋げていくというところで大変お世話になっているなど感じている。

その他には、スキーのお手伝いに来ていただいたり、図書ボランティアも学校の保護者だけでなく、OBの方にも来ていただき恵み野アリスを開催していて、朝読書の読み聞かせや図書館の整備等に力を貸していただいている。

今後の展望として、前に教育長からも地域の人にもっとアピールしてほしいという風にお話されていたので、花壇の方でも地域の皆様の力を貸していただければと思っている。

子どもたちにも話したが、私たちはされるばかりではなくて、地域のために何ができるのかということを伝えている。そうすると、笑顔で挨拶したり、ゴミをなくす運動をしたり、昨年は夏祭りにも参加させていただいたり、積極的な活動を取れるように進めており、学校では地域に成長した子どもたちを返すことを目的に学びを積み重ねているところである。

委員長: 学力の向上と関連しても、私も今なかなか教室に行けない子達に関わらせていただいているが、やはり勉強をみんなやりたがっている、知りたがっているなど感じる。勉強から離れてしまうと分からなくなっているのが、距離感を持っているが、どんな子も一对一で教えてあげると本当によく理解する。そして分かり出すと確実にやる気も出る。分かる喜びや、できる楽しさから少し離れている子たちも、大人の手の掛け方で必ず本来の持

っている力を引き出すことができるというのは、私は毎日実感させてもらっている。

これは運動面でも一緒だと思う。今までできなかったものができるようになる。そういう点では、地域の人材あるいは大学の学生の力を借りるということになり、恵庭市では不登校のことに関わっても本当に手厚く、そういう場所を作ってくれたり、指導員を派遣してくれたりして、凄くありがたい気持ちでいる。そういう環境を少しでも作ってあげられることが、子どもたちの充実した楽しい学校生活に繋がると思うので、日々そんな願いを持ちながらやっている。

D 委員：本当に体育の支援について有り難いなというところと、不登校の支援の方、恵庭小学校は通級指導教室があるので、そこの先生2人で登校渋りの子も含めて面倒を見てくれて非常に有難い。一方で、まだ人員が少し足りないというところがあるので、本来は学習支援の先生とかも含めてもう少しできればいいが、不登校の支援のところも、もう1人ほしいというそんな気持ちはある。

体育の方も、果たして体力向上に向けて、体育の授業だけの問題なのか、体育の授業もそれぞれカリキュラムがあるが、それをやって新運動能力テストの結果が伸びるのかという疑問も色々ある。うちの場合は特に女子の結果が非常に低く、見ていると外で運動する子がやはり少ない。そういったところの運動を連続して、運動できる環境だとか、もしくは遊びのところで色々なことに取り組んで、こういう遊びがあるよということを提供していただくと、今後それが運動に繋がっていき、高まっていくのかなという風に思う。

C 委員：体力向上の面で先生方にもやはり課題があると感じる。サマーセミナーやウインターセミナーで、学習会を持っていただけると参加率は高いのかなと思う。恵庭市サマーセミナー、ウインターセミナーという先生方の研修があり、きっと受講したいと思う方がいるんじゃないかなと思う。

例えば、今回は器械体操、今回は鉄棒という形にすると、それに参加したい方が増えるかなと思ったので、ご検討いただけたらなと思う。

勉強のできない子は、恵み野小学校の場合は先生方の人数が限られているので、放課後に宿題を一緒に解いて学習したり、朝は家で取り組めなかった家庭学習について、どんな勉強をしたらいいかわからない子に対し、どんなことが苦手かということを読み取って、一緒に勉強しているような形もあるので、もしそんなところも1人、2人と先生が増えたらカバーしていけるかなというところもある。

授業にもなるべく入って、遅れている子どもたちに寄り添って、一緒に勉強するというスタイルは今ずっと取っているが、わかるようになったとか、楽しいという、私たちはそれが1番嬉しいので、子どもたちがそのような形になれるといいなと思う。

何より、いま退職人材の先生に来ていただいているが、楽しくしたいという風に思いをもっ

ているのは同じだが、私はわかる＝楽しいだと思っている。そこを皆さんには共通で持って
いただきたく、職員共通した理解として今進めているところである。

委員長：先ほど、小学校の派遣を増やしていく要望の意見が出たが、今直接子供たちに関わ
っている者が丁寧に関わると、子どもたちの理解というのは本当に進む。どれだけやる気
に火をつけるかというところで、そこに火がつくと本当に自分でやり出す。

ただ、それはなかなか一斉指導の中では難いため、今も色んな支援員の方を派遣してい
ただいて、どこの学校も助かっていると思う。さらに人員を増やしていただけないかとい
う要望や願いは、きっとどこの学校も強く持っていると思うが、その今後の見通しは何
か教育委員会の方でないか。

事務局：先ほど教職員の研修のお話があった。体力の部分は、令和4年に体力向上指導教育
についてサマーセミナーで取り上げ、昨年度は新体力テストについて講座を設けている。
今年は体力の部分はできなかったが、今後私たちも検討していきたいと思っている。

委員長：学習指導面に関わって、支援員の件などはどうでしょう。

事務局：教職員の方は、道教委との関係で加配だとかという部分はあるが、一方で恵庭市独
自で積み重ねてきた部分もある。更に充実させたいというのも理解できるが、現実的な財
源だとかを考慮した中で、これからどのような手を打っていけるかというのは、この場で
何か約束することは難しいが、その気持ちはしっかりと受け止め、考えていきたい。

委員長：それでは最後に、北委員に総括をお願いしたい。

E 委員：この会議に出席させていただき、今更ですが、地域の教育資源と思われる代表の
方々と学校や行政の方が一緒に子どもたちの体力や学力について、そこに焦点を絞り、議
論をし、いろんなアイデアが出てくる。結果的に何か形になると思うが、その際の重要な
エビデンスになる、そういった会議なんだと改めて感じた。

去年の9月に文科省の有識者会議で、今後の学習指導等に係る論点整理というのが出され
た。

現在、国では次期学習指導要領の準備に入っているが、その基礎となる部分である。

読んでみると、現学習指導要領をすごく肯定しており、その中でもっと具体的な部分と、
ICTの部分を、従来の学校教育とうまくバランスを取ってやりましょう。といったざっく
りとした内容であったが、その中で目を引いたのは指導者についての記載になる。

色々な流行り言葉や、様々な指導の形態がある中で、国が改めて、指導者、先生方も指導
や支援をないがしろにはいけない。時には、子どもたちが自主的に勉強する仕組みを
作るけれども、直接的な指導も必要というような文言があった。

例えば、ハイテクの方が体育授業を指導してくださるが、日常的に子供を指導するのはや
はり学校の先生であり、あるいは支援員であるため、この方達の力量も形成していくとい

うのも重要なことという意味から言うと、もっと継続的、発展的であり、肝になる先生方の指導力の向上、スキルの向上、あるいはいろんな発想から導かれるやり方や問題、そういうところに焦点を持ちながら、必要とされる教育環境の整備について話し合われて良かったなという風に思う。

最終的に肝になるのは学校教育だけでも、学校教育だけではこの多様な世の中を子どもたちが乗り越えていくのは難しい。そのため、地域の力も借りないといけないし、透明性のある学校教育にしていけないといけないという中で、いろんな発想からご意見、ご質問が出ることに、感動した。

一方だけが考えるのではなく、いろんな立場の方からこういうご指摘、ご意見をいただいて、より良い方向に行くのではないかなと感じた。

委員長：本日で3回目の会議になるが、本当に学力、体力を向上させるというのは、全ての親御さんの願いだと思う。

学校で教えてもらったからできることがたくさんあるので、学校って本当にありがたいところだと思っている。できた時の目の輝きや、次の意欲への繋がり。我々もこういう願いを教育委員会の皆さんに感じ取っていただきながら、具体的な施策としてまた提案していただけると大変ありがたい。貴重なご意見、どうもありがとうございました。

6. その他

事務局：今年度の会議につきましては本日が最後となる。委員の皆様のご意見、本当にありがとうございました。今後も学力体力向上につながるよう、市教委も、学校とともに引き続き取り組んでいくので、次年度も引き続き学力向上にご協力をお願いしたい。

7. 閉会